e-よこ会の人気シリーズ講座 ソーシャルカレッジ

第34回 17代目と和菓子製作体験

天保年間創業の老舗 菊寿堂義信のご主人の手解きで和菓子作りにチャレンジ！お店は目立つ看板も無く、雑誌に載る度探してみるも見つからない方しばしば…実は抹茶や煎茶を嗜む茶道家達の創作依頼も引き受ける名店です。折しも当日は七夕。涼しげな葛菓子を特注し、これと対になる生菓子を織姫・彦星に見立て作りました。豆への情熱を感じた一時です。

▶文／西村由樹子　写真／萬代陽子

第35回 真夏の光、情熱サルサダンスレッスン

講師はシンガーでもあるサルサダンスインストラクターの赤穂美紀さん。普段無意識に行っている動きも重心の取り方や歩く時の体の使い方を意識してやるとなぜか難しくエクササイズさながらの消耗だ。基本ステップも見るとやるではえらい違い。動きを繋げると途端についていけなくなる。それでもダンスエッセンスを感じつつの「筋トレ」楽しい2時間でした。

▶文・写真／萬代陽子

第36回 日本商法とドラッガー

石黒一氏を講師に迎え、ドラッガー理論と日本の商法との違いと共通点を挙げながら現在の経済を考察する、というなにやら堅そうなテーマであったが、身近なたとえなどもあり、大変わかりやすく聞くことができた。石黒氏曰く「常に想定外の大小を見極め、適切な対応が求められるこの時代、変化に対応できるものがこの経済に生き残る」経済音痴の私も少し経済に興味が湧く講義だった。

▶文／萬代陽子　写真／森田稔

▶ソーシャルカレッジの詳細な開催告知、報告は **e-yokobori.jp/scd.html** で掲載中！

e情報 イー

イベント・行事案内

ソーシャルカレッジ 参加者募集！

内容が変更される場合があります。
詳細は、**www.e-yokobori.jp** より『部会のブログ』をご覧ください。

要予約
e-よこソーシャルカレッジ部会
e_yoko_socialcollege@yahoo.co.jp または
FAX.**06-6222-3878**　愛日堂薬局内 受付時間 月ー金 9:00—18:00

第39回
谷崎潤一郎が愛した船場
～『春琴抄』『細雪』の世界～
2011年12月12日(月) 19:00−20:30
【場所】大阪産業創造館 15F　中央区本町 1-4-5
講師｜たつみ都志 氏
武庫川女子大学文学部日本語日本文学科教授
芦屋市谷崎潤一郎記念館　副館長

第40回
大大阪時代の
小学校校舎は凄かった!!（仮）
2012年1月19日(木) 19:00−21:00
【場所】フジカワ画廊ビル　中央区瓦町 1-7-3
講師｜分田よしこ 氏
精華小学校舎愛好会代表
STUDIO WAKEDA 一級建築士事務所代表

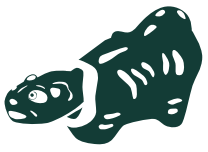
神農祭＆船場博覧会2011開催！

少彦名神社の大祭「神農祭」

11月22日(火)・23日(水・祝)

道修町を中心、北船場の守護神として親しまれ、崇敬されています少彦名神社の晩秋の風物詩として多くの人々を集め賑わう年1回の大祭「神農祭」が来る11月22日・23日に齋行されます。今年は大日本住友製薬㈱が自社本社前で東日本大む震災被災地応援物産展として神農祭「道修町◎東北マルシェ」を11月22日11：00−14：00まで開催されます。

▶文／別所俊顕

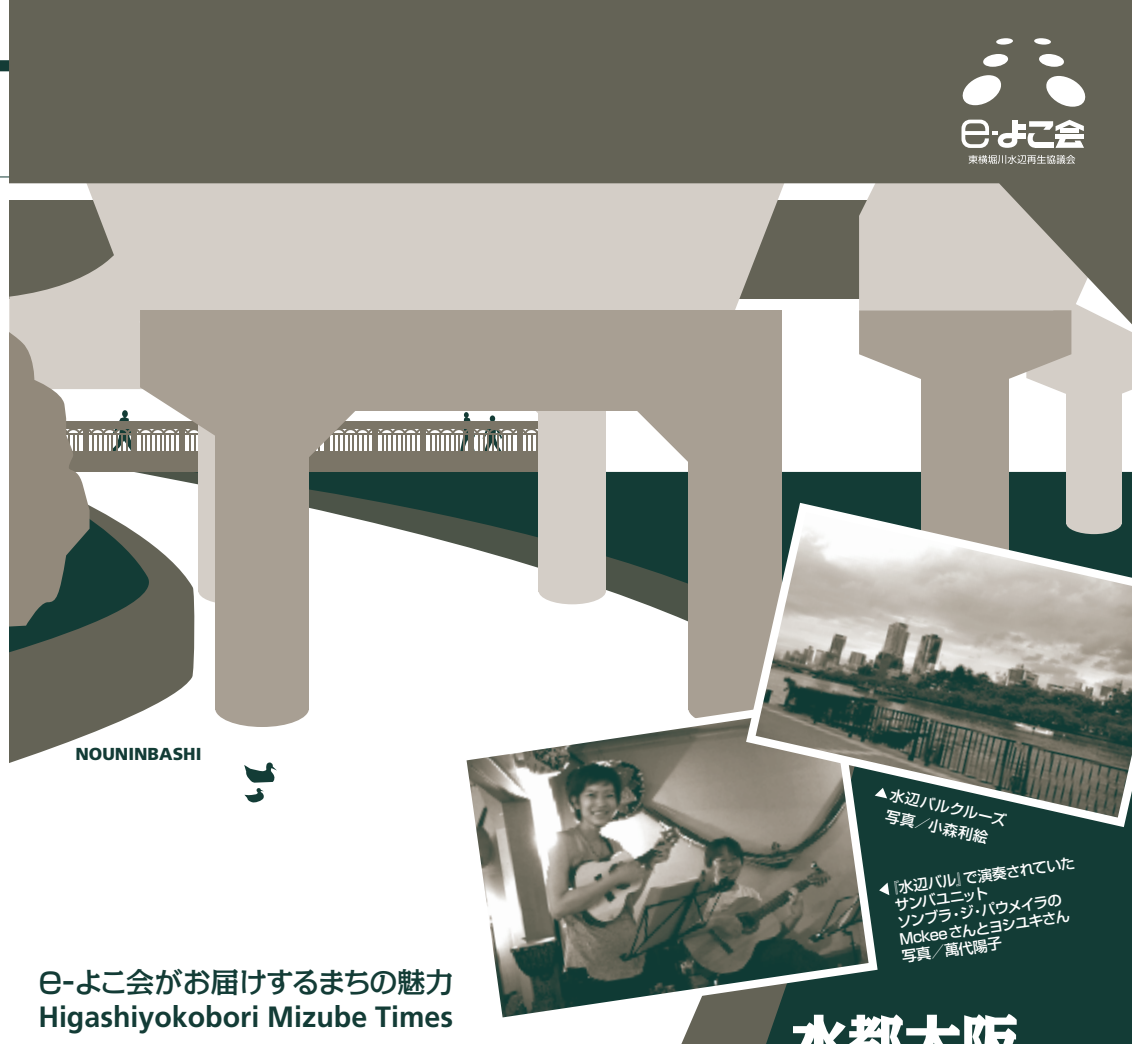


「船場博覧会2011」

11月21日(月)—25日(金)

「船場地区HOPEゾーン協議会」「まちのコモンズ実行委員会」「堺筋アメニティ・ソサエティ」の3団体が同時にイベントを開催。メイン会場の企画展示他、様々なプログラムで船場のまちにあふれる魅力をお伝えする5日間。ぜひ、ご来場ください！

【プログラム】
メイン会場 船場の木造建築展、大阪弁川柳展など
［辰野ひらのまちギャラリー］
中央区平野町 1-5-7 辰野平野町ビル B1F
まちなか会場 セミナー、コンサート、ツアーなど
Samba-hope.main.jp/expo2011.html



▲水辺バルクルーズ
写真／小森利絵

◀『水辺バル』で演奏されていたサンバユニット ソンブラ・ジ・パウメイラのMckeeさんとヨシユキさん
写真／萬代陽子

e-よこ会がお届けするまちの魅力
Higashiyokobori Mizube Times

東横堀、水辺新聞

vol.9 2011年11月号

特集記事…… 水都大阪フェス2011報告
今回のエリア…… 農人橋
e-人…… 花三　白山憲次さん
e-会社…… 本町自動車
e-店…… 洋食屋ふじ家・Fujiya 1935
株式会社増村人形店／うたたね
mexico kitchen×bar ×music×art～mu～

水都大阪フェス2011

「めぐる・たのしむ・つなぐ・かんじる」という4つの視点で、大阪はこの秋、水辺を楽しむたくさんのイベントが開催されました。e-よこ会も、「大阪水辺バル」や「大阪まちあるきCUP」に参加するとともに、10月1ヶ月間、「本町橋船着場小型船係留実験プロジェクト」を実施しました。土佐堀川では、同じく10月限定で「北浜テラス特設船着場」が設置され、東横堀川の本町橋船着場とを結び、小型船が行きかいました。行き交う舟に手を振るたびに、やっぱり大阪は水の都やなと誇らしく思います。参加したプログラムを一部ご報告します。　▶文／廣井真由美

舟で、水辺の90店舗のおいしいとこドリ
大阪水辺バル

大川を行き交う、フネ、ふね、舟!!10月22日（土）、天満橋・北浜・東横堀・福島・大正の飲食店をはしごする『水辺バル』で街は大賑わいでした。各店舗ではドリンク1杯＋自慢の1皿を味わえる上、“舟で巡る”という水都大阪ならではの楽しみも♪ 私は八軒家浜船着場から本町橋船着場へ、クルーズ。東横堀エリア（25店舗参加）の『自家焙煎珈琲 濱田屋』へ。素敵なカップに注がれたおいしい珈琲とやさしい味わいの焼菓子でほっこりしました。　▶文・写真／小森利絵

▲水辺バル『濱田屋』

水辺で大胆に絵を描く
等身大の自画像プロジェクト

おおさかカンヴァス推進事業のひとつ、アトリエズガによるワークショップ。中之島公園 がアトリエ&ギャラリーに大変身!! 時折り、川を眺めたり、舟に手を振ったり…なんとも、穏やかなひととき。

▶文・写真／小森利絵

◀等身大の自画像プロジェクト

▼灯明 2011

中之島公園に地上絵が登場!!
灯明2011

10月23日（日）、中之島公園の芝生広場に、ろうそく入りのカラフルな紙袋が!! 日が暮れてくると、あかりが灯り始めて…橋の下から見れば、幻想的な風景。上から見れば、かわいらしい花々が咲いていました。

▶文・写真／小森利絵

e-よこ会とは？

「まちなかに生きる東横堀川」を目指し、季節ごとに水辺を楽しむイベントの開催、毎月のお掃除、橋へのフラワーポットの設置など、川を活かしたまちづくりに積極的に取り組んでいます。
一緒にe-よこ界隈を楽しみましょう!
事務局｜大阪商工会議所地域振興部

e-よこ会

www.e-yokobori.jp

発行｜e-よこ会(東横堀川水辺再生協議会)
編集｜e-よこ広報部会（小森利絵　廣井真由美　杉本容子　萬代陽子　森井道雄　森田稔　西村由樹子）
デザイン｜有限会社オルタ・デザインアソシエイツ
印刷｜株式会社光陽社
問合せ先｜Tel.06-6944-6323　発行日｜2011年11月
助成｜(財)河川環境管理財団　河川整備基金

プレゼント

e-よこ会メンバーがお届けするステキなプレゼント。
今回は「e-人」でご紹介しました

花三さまご提供
クリスマスの花・ポンセチアを抽選で5名様にプレゼント！

ハガキに、住所・氏名・電話番号・メールアドレスと、「e-よこプレゼント希望」を明記の上、下記までご応募ください。

〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8
大阪商工会議所 地域振興部内
e-よこ会事務局宛

※応募締切：2011年12月10日（土）必着
当選された方は、花三さんで商品をお受け取りください。

e-よこ新聞を配布、掲示・設置していただける方募集中！

下記までお問い合わせください
有限会社オルタ・デザインアソシエイツ
〒541-0048　大阪市中央区瓦町1-1-6　Tel.06-6204-0090

水都大阪の船

夜の川に漕ぎだそう 中之島一周 小型舟の旅

小型舟運の活性化をめざし、10月1ヶ月間限定で実施された「本町橋船着場小型船係留実験プロジェクト」と「北浜テラス特設船着場プロジェクト」。個人の船や水上タクシーで乗り付け、川とまちを結ぼうというものです。10月19日、北浜テラス特設船着場から出発する夜のクルーズに参加させていただきました。お酒やおつまみを持ち込み、出発進行！普段歩きながら見る水辺の景色と舟から見る景色は、高さ感も相まってより一層綺麗に見えました。今夜のクルーズは中之島1周。北浜テラスを出発し土佐堀川～中央卸売市場くらいで中之島の西の橋の折り返しとなり堂島川を通るコースです。オフィス街の照明を楽しめるのは平日ならでは。橋の名前を言いながら橋をくぐり、歩く

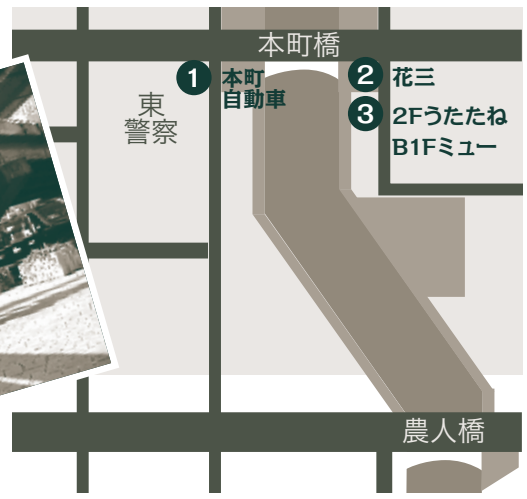
人や川に面したお店に向かって手を振ったり。夜風は冷たいけれど最高に贅沢な時間です。橋によっては舟と橋がギリギリの高さで思わずしゃがみこんでしまうほどのスリル！綺麗なだけじゃない、アドベンチャー感も満載の大阪の川と橋です。水晶橋をくぐると右手に中央公会堂。そして中之島公園ももうすぐ東の端っことなり楽しい旅ももうおしまい。。。水辺の夜景に浸り、川風を全身で感じるとても楽しいクルーズでした。

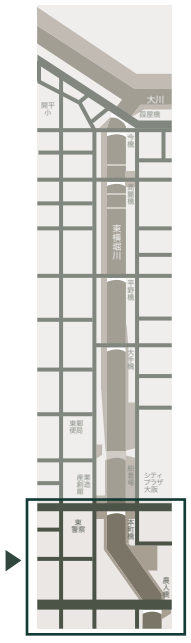
▶文／廣井真由美　写真／青島絵里花

農人橋（のうにんばし）エリア

今回のエリア担当リーダーは 花三（はなさん）さん

▼現在の農人橋

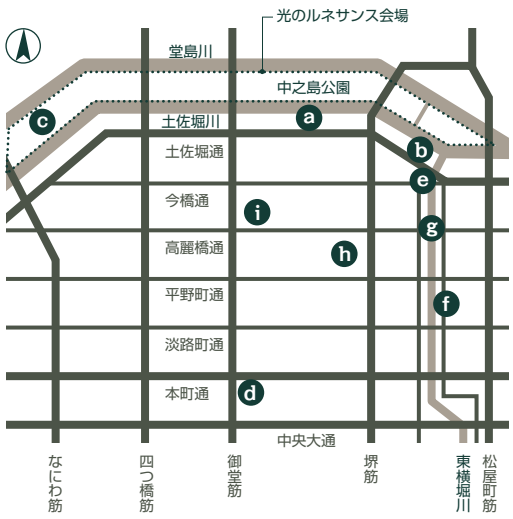




ふたつの橋で名前はひとつ、農人橋。

阪神高速道路のジャンクションが上空で縦横に交差する農人橋。名前はひとつですが、阪神高速道路を挟んだふたつの橋で「農人橋」です。「農民が田畑へ往き通うための橋」という名前の由来は今の姿からなかなか想像できませんが、江戸時代は大坂に12橋しかなかった公儀橋（幕府が管理する橋）のひとつで、とっても由緒正しい橋なのです。 ▶文／杉本容子　写真／青島絵里花

X'masとお正月SPOTはココをチェック！



A 恒例の「光のルネサンス」は今年もありますよ～ 12月14日～25日の夜は、残業帰りにふらり中之島を寄り道したり、この期間ならではのイルミネーションを川越の借景に望む晩御飯なども素敵☆対岸のⓐ「OUI」やⓑ「十六夜」界隈からの眺めはオススメです。

B 食事の前にプラネタリウムはいかがでしょ？普段17時でcloseのⓒ「大阪市立科学館」では12月17・18日、23～25日のみ夜の17時にオーロラの世界が特別上映されます。中之島ループバスや市バスが便利です。

C 私達が愛するあひるちゃん「ラバーダック」10月30日迄中之島薔薇園にお出ましでしたね！この冬、次はどこに現れるのか情報更新が気になります☆いつか東横堀川でベンチ一杯並べてあひるちゃんと見つめ合いたいなぁ～！

D 御堂筋本町駅直結のⓓ「セント レイジス ホテル 大阪」。スターウッド ホテル&リゾートが展開するトップラグジュアリーブランドの日本初進出として、10月1日に1周年を迎えました。24時間バトラーサービスを導入しており、洗練された設えも魅力です。なんとこのホテルから、カクテルブラッディマリーも誕生しました。そんな優雅な歴史のホテルのバーで夜を過ごすもよし。アフタヌーンデザートビュッフェも人気ですが、人数によってご予約はお早めに・・・

E 川の東側には水辺を望む隠れ家的なⓔ「マグノリア」ⓕ「ペスカード」等、コジャレ系のお店へエスコート。静かな夜景スポットⓖ「高麗橋」で酔い醒ましのお喋りなんて～ ２人の距離も近づくかも☆

F 暮れゆく年の瀬、厳かな新年を味わうなら近隣のⓗ「少彦名神社」へお参りしましょう。

G 昆布の老舗ⓘ「神宗」では伝統あるお正月飾が期間限定で取りつけられます。1月5日の始業日は華やかな風情を感じさせる本店でお買い物はいかが？

他にもどんな出会があるのかな？皆さんのお声、お待ちしています☆（読者プレゼントあり）ちょっと早いですが年内の新聞はこれが最後、1年ありがとうございました。皆様良いお年を・・・新年も『e-よこ会』を宜しくお願いします！ ▶文・写真／西村由樹子

まちのあの人 e-人（イー）

花三（はなさん） map❷ 白山憲次さん

東横堀川で一番古い橋 本町橋。その東詰南角の煉瓦色の素敵な建物の一階にある生花店『花三』。ここのご主人　白山憲次さんをご紹介します。『花三』は1930年東区農人橋２丁目骨屋町市場で創業されました。骨屋町（骨屋町筋）は松屋町筋よりひとつ東側によった筋。屋号の『花三』は創業者の先代　三代松（みよまつ）さんの『三』をとってつけられています。その市場は昭和20年３月の空襲で全焼しました。昭和26年に内本町市場でご商売を再開。一帯は焼け野原で、市場の２階から高麗橋の三越百貨店がよく見えたそうです。後に市場はスーパーストークス８（現：業務スーパー）になり、平成７年に現在の地に移転しました。ご商売は近隣の家庭の日常使いの花はもちろん、界隈の企業団体などを飾る花、音楽会　コンサートなどの催し物の際のお祝いの花等を幅広く扱っておられます。『人類は花を離さない。良い花をきちっと提供する』そんな心掛けでご商売を続けられておられます。

本町橋のひとつ南側の農人橋は、当時は平野橋ぐらいの幅で、子供時代の格好の遊び場、よくトンボとりをしたそうです。そのころ川は今よりずっときれいで、ギンヤンマがよくとれたとか。どういうわけか南からしか飛んでこないギンヤンマ。橋手前に近づくと急に橋の上に上昇してくるという習性を活かして捕まえたそうですが、ギンヤンマの生態の真相は未だ謎だそうです。本町橋、農人橋間の本町の曲がりには昭和12～13年ごろまで捺染工場があり、東横堀川の水で染色後の布を洗い、ついた糊を落とす。それを干す櫓も立っていたそうです。川が今よりずっときれいだったことの証ですね。昭和のはじめ、物心ついたころより平成の今まで東横堀川と農人橋、本町橋の界隈の移り変わりを一貫して見続けられているのが白山憲次さん。

とても素敵なｅ人です。

▶文／森井道雄
写真／森田稔

右／白山憲次さん▶
左／ご子息の白山義英さん

e-会社（イー） 本町自動車

Tel.06-6271-2488
中央区本町 1-3-2　map❶

昭和32年２月創業、現社長は２代目で20年前に大手電気メーカーを退社後、家業である同社に従事。当初は保険の代理店業務を専門に行っておられた。５年前より、お父様が引退されたのを機に、自動車部門も引き受けられた。地域密着型の良心的な仕事振りで、お客様からの信用力は絶大で、大半のお客様は先代よりお付き合いいただいているそうで、現社長になってから切れたお客様はないとのこと。大手ディーラーよりも価格的に、より安く、かつ安心できるとの口コミで、紹介客も多いそうだ。少子化や、若者の車離れの影響で経営的には難しいところもあるが、時代が移り変わっても、自動車の必要性は変わらない、将来的には、カーシェアリングなどの事業にも手を広げて行きたいと、代表取締役　岩崎雅一氏は語っておられました。自動車のことでお困りなら、気軽に相談されてはいかがでしょうか。 ▶文・写真／森田稔

e-店（イー） まちのこの店

mexico kitchen×bar×music×art mu（ミュー）

Tel.06-6944-1920
17:30−24:00　不定休　中央区本町橋 5-2-B1F　map❸

本町橋からすぐ、ひっそりと隠れ家のような通路を入り階段を下りるとそこは不思議空間。界隈では馴染みの無いメキシコ料理とお酒を供するがどちらも旨い。知らなかったおいしいテキーラにも多数出会える。カクテルもお好みに合わせて。一人で飲むも良し、仲間と料理を囲むも良し、開け放った窓から感じる東横堀川と測道の樹木の気配が何とも清々しい。音楽、料理、酒、リラックスしながら全てを楽しめる。BARカウンター2席、窓向きカウンター6席、テーブル8席 ▶文・写真／萬代陽子

うたたね

Tel.06-6946-0661
11:00−19:00　月火水休　中央区本町橋5-2-2F　map❸

家具メーカーでのデザイン、工房等での制作修行などを経て「うたたね」を立ち上げて13年目。生活のアクセントになる小物から長く使える家具まで、ちょっと気の利いた、でも飽きのこない製品の数々。材料は広葉樹をメインに国産・外国産問わず良いもの、製品に適したものをチョイス。最近は遠路はるばる東京などの遠方からオーダーのお客様がいらっしゃるそう。デザインから製作、メンテナンスまで一貫してこなされる「うたたね」さんならではだ。家具全般を納めたレストランで食事をされた方がオーダーに来られることも。日々触れて感じ、ずっと使う家具だからこそ、そこから伝わる何かを感じてのことだろう。展示室では柔らかな空気に包まれながら家具や様々な製品を見ることができる。代表の山極さんもまたそんな家具たちのような柔らかい人だ。

▶文・写真／萬代陽子

洋食屋ふじ家 Fujiya

Tel.06-6941-7283
11:30−14:00　18:00−21:00　日祝休
土曜の夜は要予約
中央区鎗屋町 2-2-1　11月から店舗が移転しました

家族経営の老舗洋食屋さん。オススメは、有頭えびフライとハンバーグ、ほたてとえびのクリームコロッケがセットになった、その名も「スペシャル」！（2500円、ランチにはご飯と赤だし、香の物がついた定食で2200円）これぞ洋食、という味わいに、ボリュームも満点、満足笑顔間違いありません！ Fujiyaさんは、現在のご主人が3代目。大正元年に、おじい様が米穀商を営む傍ら、食堂を開店したのがスタート。当時の名物は、大阪で二軒でしか食べられなかった“シチュー”。洋食の要素を親しみやすくプラスしたメニューだったとか。2代目は和牛を1頭単位で仕入れ、店内でさばいてすき焼きやステーキを出す和洋専門店。ホテルで腕をふるっていた3代目が本格的な洋食を気軽に食べられるお店に・・・常連さんに加え、ネットでも人気爆発、

Fujiya 1935

Tel.06-6941-2483
11:30−13:00　18:00−21:00　日・第1月曜休
コースのみ要予約
中央区鎗屋町 2-4-14

お昼時は常に満席です。そして4代目は、ミシュラン3つ星に輝いたモードスパニッシュ「Fujiya1935」。既に小学校の卒業文集で「日本一の料理人になりたい」と書かれていたとか・・・親子4代、それぞれに料理人の個性が光るご一家です。 ▶文・写真／みずべずき

株式会社増村人形店

Tel.06-6763-1870
9:00−18:00　中央区松屋町住吉 1-8

松屋町問屋街に面する株式会社増村人形店　同社は昭和16年創業で、今の社長で２代目。現在松屋町（大阪の人はマッチャマチという）には人形店が23店舗・事業所で15社が営業している。20年ほど前の最盛期には32店舗が営業していた。現在東京の浅草橋よりも多くの店舗が有り、人形問屋街では日本一の規模とか。その昔、人形店の多くが今の御堂筋付近に集中していた。御堂筋の拡幅工事に伴い、立ち退きで今の松屋町に移った。地元の長老の話によると、松屋町・末吉橋かどの東横堀には滝と船着場があり、諸国からの荷物が荷揚げされていたそうです。東横堀に滝があったとは驚くばかり。ところで、この界隈の人形店は１年を通して人形だけを並べているわけではなく、時期により売る商品を変えている。正月明けから３月３日までは、雛人形・その次は５月５日まで五月人形・こいのぼり・鎧兜、それが終わると、「あてもん」と呼ばれる小型玩具や

花火・雑貨などを10月ごろまで販売、年末までは正月用の羽子板・破魔矢と続く。毎年この繰り返し、常に客のニーズを捕らえた商売は巧みだ。同社の３号店を見せていただいた。親王飾り・木目込雛といったコンパクトな雛飾りが主流とのことだが、７段飾りの980万円の超豪華な雛飾りも展示されており、見るだけでも楽しい。ご多分に漏れずに、人形業界も人口減少の影響をうけている。同社は丁寧な仕事が売りの、吟味された商品を扱うことで、他社との差別化を図っていきたいと、同社代表取締役の増村和行氏は、語っておられました。今後の同社ますますのご発展・ご活躍を期待したい。

▶文・写真／森田稔